129
分枝 branching 07
branching 07
ブランチング 08 発刊 2014 年 3 月 9 日
ブランチング 09 発刊 2014 年 6 月 9 日
ブランチング 10 発刊 2014 年 9 月 9 日
入稿先 system@baekkakkei.com

下積み

Kaoru AMACHI 1979–

安達浩平

現代において【下積み】がいかに重要かを思い知らされる。

それは、技術に限ったことではなく人間関係から成人のメンタル面にも及ぶと思う。

何度もなろうとして、入目玉を惨にす実現することが本気だったのだろうか。

この間、仕事で女性が涙を流しているのを見た。

情報の伝達に差こスがあったのだ。

信頼を失いかけたことが本当にくやしかったのだろう。

でもこのことは一件を最にもっとすばらしい人間になると思った。

【下積み】は辛い。

でもつらい思いをたくさん経験した人ほど人の痛みが分かる人間になれる。

だから【下積み】は甘っぱく。

安達浩平 Kohei Adachi
1979 年生まれ、愛知県出身
愛知県愛知県在住 会社員
Twitter: @Kohei_Adachi
Blog: ブログ、ときどき、ものがたり
http://ameblo.jp/kohei-adachi/
東京ひとりぼっち文学館とウクレレショップ
http://hoganaiko.jimdo.com

枯木

Gomi SAKAMOTO 1955–

丸山玄太

山間の集落の村にある火葬場の煙突から黒煙がまがっている。緩やかにくねりながら長く伸びていく。薄い青の空に吸い込まれていく。その様子を老婆の一人が眺めていた。

男の煙突の先を見ながら呟いた。隣の男が頷き応じる。指先で燻らせていた煙草はそのまま一度も口へ運ばれることなく消えた。黒煙を吸い込んで、雲は更に低く重くなっていく。

「こりゃあまもなく雪だな」

隣からも見ての煙草を放り、男は建物の中へとっていった。無言の男はその背に、ゆっくりと投げかけた。

「あいつ、生活保護、これで助かるだろうな」

男が煙突の先を見ながら呟いた。隣の男は